

向井 豊昭（むかい・とよあき）

1、プロフィール

小説家。東京生まれ。北海道日高管内の小学校で教員として教壇に立ちながら小説を執筆。早期退職後、『BARABARA』で第12回早稲田文学新人賞、第2回四谷ラウンド文学賞を受賞。

<生没>

1933(昭和8)年11月14日～2008(平成20)年6月30日

<代表作>

『BARABARA』、『DOVADOVA』、『怪道をゆく』、『みづはなけれどふねはしる』
(麻田圭子との共作)他

<青森との関わり>

祖母の故郷である下北郡川内町(現むつ市)に疎開。大揚鉱山に勤めながら大湊高校定時制川内分校にて学ぶ。

2、作家解説

昭和8年11月、東京都に生まれる。祖父は詩人の向井夷希微(本名・永太郎)。

空襲のため、品川から祖母・いちの故郷である下北郡川内町(現むつ市)に疎開し、二人で生活する。川内町立川内中学校を経て、家計を支えるため株式会社大揚鉱山に就職し、青森県立大湊高等学校定時制川内分校へ進学する。定時制高校では陸上競技部に入部し、短距離走で優れた成績を残す。しかし仕事・学業・部活動と毎日多忙を極めた結果、29年結核で川内病院に入院することとなる。症状は重く、後に専門の療養所へ移る。療養中ガリ版刷りの詩集を作り、国語教育に携わるため教師の道を志す。

結核が完治し高校を卒業すると、玉川大学文学部教育学科(通信教育課程)にて教員免許を取得する。37年4月から青森県下の小学校教諭となるが、間もな

く北海道日高管内に転出、同年8月から静内町立御園小学校に勤務、日高町立三岩小を経て新冠町立新冠小学校に勤務する。40年に手書きガリ版の個人誌「手」を発行、「御料牧場」が「文学界」同人誌評で注目される。自費出版の小説集に『鳩笛』『ここにも』がある。62年に小説を書くため早期退職し、東京へ転居する。

平成8年『BARABARA』で第12回早稲田文学新人賞、11年に同作品で第2回四谷ラウンド文学賞を受賞し出版に至る。その後も「早稲田文学」にて「まむし半島のジビン語」「あゝうつくしや」「エロちゃんのアート・レポート」などを発表し、18年にはBARABARA書房を設立する。そして『怪道をゆく』、麻田圭子との共作『みづはなけれどふねはしる』を出版する。19年、直筆原稿をコピーしてホチキスで留め、和紙で綴じた自作同人誌「Mortos」(限定30部)を発刊する。第4号(2008年6月)を終刊号とした。

20年6月30日朝、肝臓癌のために死去。息子への口述筆記で残した「島本コウヘイは円空だった」が最後の作品となる。